

# こだま通信

60号



[編集] 特定非営利活動法人こだま

〒690-0048 松江市西嫁島1-1-19

☎&amp;FAX 0852-28-8162

## ・・・30年度介護報酬の変更について・・・

こだま通信56号でもお伝えしていましたが、今年度は障がい者サービスの見直しと報酬改定が行われました。制度の見直しでは、障がい者の重度化や高齢化への対応、医療的ケア児などのへの対応がされました。報酬の改定では、サービスによって違いはあるものの全体では改定率は+0.47%の微増になっています。

障がい者サービスの見直しでは、重度化や高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援施策が盛り込まれました。重度の障害者への支援を可能にするグループホームの新たな類型が創設され、グループホームで平日の日中を自分のペースでゆっくりと過ごせるようになります。障害の重い方や、歳を重ねた方にとっては良い制度だと思います。

また、これまで家族の方の負担が大きかった医療的ケアの必要な方への支援についても、訪問型の放課後等デイサービスが新設されたり、生活介護では看護師を複数配置した場合に加算が多くなるような措置も講じられ、生活介護の事業所で医療的ケアの必要な方の受け入れが出来やすい状況が作られました。さらに一人暮らしをする障がい者の方の理解力や生活力を補うための「自立生活援助」のサービス類型ができました。定期的に利用者の方のお宅を訪問して、家事や公共料金、健康管理、近隣の方との関係に関する相談などを行えるようになります。65歳を超えた方がこれまで通り障がい者サービスが使い続けられるように共生型サービスも新設されました。

報酬改定では、事業所数が大幅に増加している一方で、一部の事業所においてサービスの質の低下が見られることが課題となっていることや、制度の持続可能性を確保するため、効率的かつ効果的にサービスを提供できるよう、サービスの質を評価した報

酬体系とする。と説明されています。

NPOこだまが行っている事業の中では、居宅介護のサービス提供責任者の要件が介護福祉士の資格を所持しているかたが優遇される報酬体系になりました。また行動援護では支援計画シートや支援の手順書などの作成が必要となり、作成されていない場合には減算されることになりました。

また、生活介護の事業では行動援護などの研修を受けた職員を配置した場合に、重度障害者支援加算が受けられるようになりました。そして看護師さんを多数配置した場合に、看護師配置加算が増額となります。開所している時間が短い場合は、報酬が減額されるようになりました。

就労継続B型は、前年度の工賃支払い実績によって報酬が決まる報酬体系に変わりました。これまでは、自分たちが設定した目標工賃を上回っていれば良かったのですが、5千円未満から4万5千円以上の7段階に区分されています。こだまの就労B事業のクッキー工房は現在1万5千円の工賃ですので下から三番目の報酬になります。今後運営では厳しい面も出てくることも予想されますが、力がついた利用者の方の働きたいという気持ちに応えられるよう、努力していきたいと考えています。今回の報酬改定は、質の向上が課題です。NPOこだまも、サービスの質の向上に向けて精一杯努力してまいりますので、ご支援ください。【山田 久】

# よろしくお願ひします

この度、こだまの施設長として仲間入りさせていただくことになりました、菅道子です。

簡単に自己紹介させていただきます。島根大学教育学部を卒業後、38年間特別支援教育に携わってきました。昭和55年、隠岐養護をスタートとし、大田小学校（特殊学級担当）、出雲養護、江津清和養護、緑が丘養護、石見養護、松江養護、そして最後に盲学校で校長として2年勤め、定年退職となりました。その間、たくさんの児童生徒との出会い、保護者との出会いがあり、ありきたりな言葉ではありますが、本当に貴重な学びをさせていただきました。今の私があるのも、この38年間のおかげです。

そんな私が何故にこだまに...と思われるかもしれませんが、実は隠岐養護で山田さんと同時期に勤務していたのです。隠岐は、当時から「隠岐の子は隠岐で育てる！」を合言葉に、すでに教育と福祉と医療が連携しあい、障がい児者の教育や卒業後も豊かな生活が広がっていくようにと、とても情熱的に関わっておられました。そこでの学びが、私の特別支援教育の原点になっていることは間違いありません。

そして、緑が丘養護で高等部の生徒を担当した時に、実習体験や進路先として見学したのが、さくらの家とげんき工房でした。そこに山田さんがおられ、2度目の出会いでした。仁宮さん、吉田さん、渡部さんとも出会いました。無認可の作業所でありながら利用者の皆さんとエネルギーで楽しそうに働いておられる姿を見ながら、いつか私もそんなみなさんや、利用者さんと一緒に働いてみたいという思いが湧いていました。実際に働く姿を想像してみたりもするようになっていました。

そして、時は流れ、緑が丘養護や松江養護で担任していた生徒たちが、「さくらの家」や「こだま」に通ってますよ！盲学校の卒業生も通っていますよ！という話も聞きました。私の退職を契機に「一緒にはたらかないか」と声をかけていただき、そんな思いが詰まったこだまで再就職できることを本当にありがたく幸せな気持ちで一杯になりました。

こだまは、今年で16年目です。今までこだまが着実に、地道に築き上げてこられた～街のなかでいきいきと、自分らしく～。このコンセプトを常に基本に据え、利用者さんの立場に立ち、そして保護者の気持ちに添い、地域に信頼され、愛され続けていくこだまとして、私なりに力添えができればと思っています。

まずは、15年の取り組みをしっかり勉強させていただこうと思っています。そして、新しく関わるからこそ見えてくる課題や思いも、しっかり職員と話し合いをもちながら、より充実した支援に向けて頑張っていきます。今後の「こだま通信」で、少しずつ伝えていければと思っています。皆様の暖かいご指導をよろしくお願ひいたします。 【菅 道子】



# 30年度NPOこだまの体制について

前回の便りでもお知らせした通り、今年度より居宅介護の事業と単独の生活介護事業、多機能型の生活介護と就労継続支援B型の事業を行うように再編いたしました。

居宅介護事業は年々利用者の方が増える一方、慢性的にヘルパー不足が続いています。皆さんの要望になんとか応えられるように奮闘していきます。新年度に採用になった職員もヘルパーの資格や介護福祉士の資格所持者ですので、近いうちのヘルパーデビューをと考えています。

生活介護事業は単独で20名の事業所と多機能型の生活介護10名で運営していきます。単独型の生活介護は、車椅子の方や医療的なケアが必要な方を中心としたグループです。これまでのほんそご・生活3といったグループです。

多機能型の生活介護はこれまで生活1と言っていたグループです。昨年からくろもじ茶作り乾燥野菜作りに取り組んでいますが、今年はより良い製品が提供できるように頑張っていきます。就労継続支援B型の事業はクッキー工房とカフェこだまです。クッキー工房が作っている米粉クッキーはとても評判が良く、いつも生産に追われている状態です。今年は、販売の拠点もできたのでより一層の生産体制が取れるようにしていきます。4月17日にオープンしたカフェこだまは、誰もが立ち寄れる場所になるようにしていきたいと考えています。焦らずゆっくりとみんなの夢を実現していきます。どうか、ご支援ください。

## 2018年度職員配置表

	生活介護こだま（20名）		多機能型よめしま（20名）		居 宅
	せいかつ3	ほんそご	せいかつ（10名）	就労B（10名）	
施設長	菅 道子				
サービス管理者	安部		山田		・井川 ・曳野美
職 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曳野</li> <li>・梶野</li> <li>・森山</li> <li>・古屋</li> <li>(看護師)</li> <li>・細川</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安部</li> <li>・永井</li> <li>・伊藤</li> <li>(看護師)</li> <li>・菅</li> <li>・新見</li> <li>・余村</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渡部</li> <li>・野津</li> <li>・八壁</li> <li>・橋本</li> <li>・日野</li> <li>・久保田</li> <li>・永瀬</li> <li>(看護師)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・池田</li> <li>・吉田</li> <li>・山岡</li> <li>・福田</li> <li>・忠田</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井川</li> <li>・曳野美</li> <li>・常峰</li> <li>・安達</li> <li>・藤野</li> <li>・山田</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補助)</li> <li>・安達</li> <li>・山田</li> <li>・井川</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(補助)</li> <li>・曳野</li> <li>・常峰</li> <li>・藤野</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・仁宮</li> <li>・原田</li> <li>・村上</li> <li>・園山</li> <li>・伊藤</li> </ul>

※ 架線の職員は新年度採用職員

# Cafe こだま OPEN しました!!



みなさん、こんにちは！カフェの担当になった福田です。ボランティアでお邪魔させていただいている時からずっと気になっていた「カフェこだま」。どんな所になるんだろう...と想像をふくらませていましたが、この度担当をさせていただけることになり、とっても嬉しく、やりがいを感じている毎日です。

カフェのイメージは「和モダン」「気軽に入れる」「ゆっくりできる空間」私の今までの経験ではなかなか出せない雰囲気、正直悩まされました。しかし、カフェの内容について決める会議で、職員の方がたくさんアイデアを出してくださったり、「何か手伝えることがあったらいつでも言ってね」と声をかけてもらい、本当にありがたいなと感じながらイメージをふくらませていきました。

カフェの準備を通して、あの場所は「ただのカフェ」を運営するためのものではない。利用者さん、そしてご家族や職員のみなさんの思いがこもった「こだまらしいカフェ」「あたたかさを感じる場所」になるよう、全力を尽くしたいと強く思うようになりました。

4月12・13日に企画したプレオープンでは、開店前に利用者さんのご家族の方が笑顔いっぱいでお邪魔しますー！と玄関を開け、「食器は足りてる？」「うちから持ってこようか？」と暖かく声をかけてくださいました。入社して間もない私にもそんな風に声をかけてくださり、こだまが1つの家族のように感じられました。ランチの時間が始まると、接客で必死な私にも伝わるくらい楽しい雰囲気の中で、美味しそうな表情や「おかわり！」と茶碗を差し出してくださる利用者さんの姿に、私の方が幸せな気持ちにさせてもらいました。5月からはランチ担当の職員も来られ、さらに素敵な場所になっていくのではないかとワクワクしています。今の気持ちを忘れずに、毎日を大切に、こだまに関わるたくさんの方が幸せにいきいきと過ごせるよう「カフェこだま」でお手伝いできたらと思います。準備にご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。これからもよろしく願いいたします。

【福田 翔子】

## カフェ こだま

松江市東忌部町96-5

(一畑バス大東線・千本バス停前)

営業時間 10時～16時

(11～14時ランチタイム)

営業日 当面は平日営業で行います

連絡先 ☎ 0852-33-2225



## 夢だったみんなのカフェができました！

2年ほど前から、生活介護の活動として月に一度5名ほどのお客さんを招いて、こだまカフェを開いていました。ご飯を食べていただきながら、こだまの活動や利用者の方の様子を知っていただくという思いで始めたカフェの活動でした。季節に応じたメニューや利用者の方が作業で作ったラスクのお土産付きで、皆さんから喜んでいただけていました。

また就労継続B型事業所みけねことのコラボでクッキーカフェを開いたり、ポレポレでランチカフェを試みたりして、利用者の皆さんがいきいきと接客する姿が印象的でした。そして、いつかは本物のカフェが開けるといいねと話合っていたものです。その矢先、喫茶店だった建物が借りられることになり準備を始めました。

ゆっくりと構想を練りながら、知り合いの設計士さんに依頼をしてチョッとモダンなカフェにして欲しいとお願いしました。すると、白と黒を基調とした素敵な外観・内装に仕上がりました。そして、入口前には大きく目を引くカフェこだまの看板が・・・。

中に置く小物も、センスあふれる物を用意してもらって本当に夢のようなカフェができ上がりました。開店前から地域の方からの期待の声も寄せられ、みんなが集える場所になるように準備してきたところです。カフェこだまは、就労継続支援B型の事業として運営していきますが、みんなが色々なつながりが持てるような、行ってみたくなるような場所にしていきたいと思っています。

開店まもないですが、すでに次のステップに向けて歩みだそうとしている方もいて、こんな場所が必要だったんだな、と感じさせてもらっています。是非、応援よろしくをお願いします。

## 生活介護よめしま

職員の入替わりもあり、新しく3名の職員が加わりました。エネルギー溢れる職員も加つて、活動の中に笑顔がたくさん溢れています。職員がかわっても、今までどおり自分のペースは変わらない方、新しい職員に興奮している方もおられました。それでも焦るのではなく、一人ひとりのペースを大事にしながら一緒に活動をしていきました。職員が落ち着かなくなるとみんなも落ち着かないので、座ってお茶を飲んだり、話をしてゆったりとスタートをきりました。

日中活動が始まると、今までと雰囲気が変わったり流れも変わっていたりする中で、徐々にみんな慣れていきました。まだ慣れてないよーという方もおられるかもしれませんが。

先日うれしい出来事がありました。家ではたくさんお話をするけれど、こだまでは話をしてくれず、活動の中では声を聞いたことがないという利用者の方がいます。その日は活動グループを二つにわけて、屋外班と室内班で活動をしていました。室内での造形活動終了後に大好きなボールを使って職員と体を動かしていました。職員がいないところにボールを転がしてみたり、ニヤリとほほえんでみたり、一緒に楽しい時間を過ごしました。少ない人数だったので、しっかり顔も上がって、ニコニコ笑顔もたくさん見ることができました。時間は夕方の送迎前になり、玄関でくつをはいていました。「・・・さん！・・・さん！！」と一緒に活動していた職員の名前を大きな声で3度呼んでいました。

職員から様子を聞いていたので、「ボールでたくさん遊んだの?!」「楽しかった?!」と聞くと、興奮した様子でハイタッチを繰り返してくれました。そして一緒に楽しい時間を過ごした職員のところにも行って、ハイタッチをして車へと乗りこみました。こだままで話してくれたのは約1年ぶりのことでした。

一日の活動の時間は朝の迎えから夕方の送りの時間までと限られています。その中で、一人ひとりが主人公になれる時間だったり、出来事をつくって、「楽しかった!」「また明日もこだまに行きたい!」「明日は何があるかな!？」と日々のくらしをいきいきと過ごしていけるように、活動を提供していきたいと思えます。4月からの多機能型よめしまの生活介護、どうぞよろしくお願ひいたします。

【野津 拓馬】

## ほんそごの様子

4月からこだまの職員として”ほんそご”と一緒に活動させていただくことになりました、永井智と申します。

日々、新しい事ばかりで先輩職員の指導を受けながら利用者の方々と楽しく活動しています。

”ほんそご”での生活介護を通して驚いたことがあります。それは屋外での活動が本当に多いことです。4月に入りまだ2週間しか経っていませんが、様々なお花見スポットに行き、斐川ではチューリップ、出雲ではいちご狩り、少し肌寒い日には玉造の足湯、タンポポを採りに忌部、桜を見るために忌部へ、利用者の方と忌部のカフェこだまへ。

その時期の旬をみんなで追いかけて、積極的に自然の中へ活動の場を広げることによって季節を感じることが出来ます。

そして、簡単に”季節を感じる”と言ってもその”感じ方”は利用者の方一人一人です。随分違うようにおもいます。嗅覚、味覚、聴覚、、、さまざまな方法で感覚を鍛え、自分以外の存在を感じることで利用者の方々の普段の生活が豊かになるとおもいます。

車椅子やトイレの関係上、活動できる場所、行くことができる所はまだまだ限られています。こだま全体の活動が外へ広がっていくことで公園や駅などの公共施設、飲食店等もみんなが行きやすく楽しめる場所が変わっていくと考えます。

時々チェックしている情報誌のおすすめスポットや有名な観光地も”ほんそごの利用者の方々が安心して楽しむことができるか”ということを中心に留めて足を運んでみたいとおもいます。



【永井 智】

## せいかつ3の様子

4月に入り1名のメンバーを迎えて新しいスタートをきった生活3です。

今年はちょうど桜の時期とタイミングが合い、たくさんのお花見に出掛けることが出来ました。生活3では、広瀬町や木次町にお花見に行きました。

ちょうど広瀬町ではお雛めぐりのお祭りをしていて、満開の桜に加え、たくさんのお雛様を見学することができました。最近では珍しい七段飾りのお雛様や、つるし雛を間近で見ることができました。部屋いっぱい展示したお雛様は迫力がありました。それぞれがお雛様の前でゆっくり座って眺めたり、つるし雛にそっと手を触れてみたりとても楽しんでおられました。

木次でもちょうど桜まつりを開催していて、屋台もたくさん出ており人出も多く、お祭りの雰囲気を感じることが出来ました。桜の花びらが舞い散る中みんなでブルーシートの上に座り宴会をしました。ノンアルコールですがビールも用意し皆さんに飲んで頂きました。職員による生演奏を聴きながら、お弁当やお菓子を食べました。とても楽しい時間となりました。桜の花は一瞬で次の週には花が散ってしまいました。この満開の時期に皆さんとたくさんのお花を見られたこと、とても嬉しく思います。

【森山 祐子】

## クッキー工房

久しぶりのクッキー工房は以前とは違い「お仕事の間」になっていました。

午前中はクッキーの製造にみんなで取り組みます。コロコロクッキーが6種類、型押しクッキーが5種類とたくさんのクッキーを次々と製造していきます。どんどん鉄板に成形されたクッキーが並びます。午前中の作業で焼きあがったクッキーを午後の作業で袋詰めしていきます。みなさんがよく目にする5個入りクッキーの他に、コロコロクッキーが10個入ったクッキーも最近とても人気があり販売へ持つていくと売り切れるほどです。

1人の利用者さんが担当して袋詰めをされているので1回に作る量も限られています。でも販売へ一緒に出かけた時に自分が袋詰めをしている10個入りクッキーが売れるのを見て嬉しかったそうです。販売へ行けなくても戻ってきた籠に200円クッキーの残りが少なくなっているのを見ると私たちも嬉しく感じます。最近は「もっと10個入りを作りたいです」と言って積極的に取り組んでおられます。また以前はミックスを作る時は職員とペアで順番にクッキーを入れていっていましたが最近は利用者さんとのペアで10個のミックスを作っていくかれます。利用者さん同士で数を数えながら取り組んでいる姿はとっても楽しそうです。彼女を中心に利用者さん同士であいさつや会話を交わす姿があり、以前にはなかった利用者さんの姿に心が穏やかになります。みなさんが意欲的に作業に取り組んでいて忙しいイメージのクッキー工房ですが、作業を楽しんでいる皆さんの笑顔に心癒されるクッキー工房です。

【山岡 智加】

## ホームヘルプ

今年度で二年目のこだまになりました。ヘルパーとしてはちょうど半年が過ぎました。一番に思った今の気持ちなのですが、「ヘルパーとしての仕事をしてみて、本当によかったな」という気持ちです。色んな要素がそう思わせてくれますが、利用者さん本人や保護者の方と毎日少しずつではありますが、話ができるようになりました。すると些細な変化や仕草などに気付くことができるので自分にとっても大きな自信に繋がります。

移動支援でもどのように余暇支援ができるか、本人にとってのマイナス要素などを事前に取り除いたり、言葉や行動でフォローできているか考えながら支援に入ります。こうした配慮できるようになったことが、自分にもプラスになっています。要は人との繋がりですよね。自分一人で出来たようで、全て誰かの教えがあって今があるという事を忘れないように今年度のたくさんの笑顔と出会いたいと思っています。

【安達 和登】

伊藤看護師の健康講座

## 「大切な 自分のからだ」



最近、ほとんどの方が一年に一回検診を受けています。  
 みなさん結果はどうだったでしょう？  
 動脈硬化が進んでいませんか？  
 血管の中が、古い水道管の中のようになっていませんか？  
 そもそも血液はどこで作られるのでしょうか。  
 血液は心臓ではなく、骨（骨の中の骨髄）で作られています。  
 作られた血液は、骨に入り込んだ毛細血管から運び出されます。全身の血管を全部つなぎ合わせると、約10万キロメートルで地球

2周半の長さになります。心臓から押し出された血液はこれを約50秒で体を一巡りするのです。心臓がポンプの役割をして全身に送り出しているのですから、その血管がドロドロだと大変です。もう一度結果を見なおしてみてください。

「動脈硬化なんて知らない。関係ない」なんて言わないで、大切な役目をしている血管を大切にしましょうね。

【伊藤 和枝】

## こいのぼりカフェ 今年も開催します。

ゴールデンウィークの最終日の5月6日(日) 11時から14時まで事務所とほんそごにて行います。

昨年以上に楽しんでいただけるように準備を進めています。最近あまり見かけなくなった大きな鯉のぼりを眺めながら、みんなでお話ができたらと思います。

事務所では軽食を、ほんそごではクッキー工房とみけねこのコラボメニューや、いま巷で話題沸騰中のタンポポコーヒーでおもてなしします。お楽しみに！

子どもさんの作って遊ぼーコーナーや職員クラフト市など内容盛りだくさんですよ。是非ご家族でお越しください。

**5月6日  
(日曜日)  
11~14時**

